



様々な芸術・文化に
触れる体験

「人に伝わる表現」を学ぼう

中学校

板橋区立板橋第三中学校



笑顔と学びの体験活動
プロジェクト

概要

「人に伝わる表現」をテーマに豊かな心の育成を目指し、1回目は言葉と歌で、2回目は身体表現で、3回目は集団演技で「人に伝わる表現」を学ぶ機会を設けた。また、3回の体験活動と学校行事や授業との関連を図った。

育成を目指す
資質・能力

- ・表現技法等の知識・技能を身に付ける
- ・どのようにすれば「人に伝わる」かを一人一人が考え、実践することで、思考力・表現力・判断力を高める
- ・主体的に表現活動に取り組もうとする態度を養う

年間指導計画

	4月	5月	6月	7~8月	9月	10月	11月	12月	1~2月	3月
各教科等			授業：体育・美術 特別活動 「人に伝わる表現」 について学ぶ		体験① 言葉と歌で 「人に伝わる表現」 を学ぶ	文化祭 体験で学んだこと を实践する	体験② 身体表現で「人に 伝わる表現」 を学ぶ	運動会 体験の振り返りと 運動会の準備		体験③ 集団演技で 「人に伝わる表現」 を学ぶ

言葉と歌で「人に伝わる表現」を学ぼう

シンガーソングライターによる講演とライブ体験により、言葉と歌で「人に伝わる表現」を学んだ。

ライブでは、皆で声を合わせるセッションを企画し、体験を通して、生徒に歌うことの楽しさを共有し、自分を解放して表現することが、いかに人に伝わるかということを生徒が感じ、文化祭の合唱や表現活動につながる体験となるように設定した。

身体表現で「人に伝わる表現」を学ぼう

パリオリンピックの種目に採用されたブレイクダンスを体験することにより、身体表現で「人に伝わる表現」を学んだ。

プロダンサーによるパフォーマンスを鑑賞し、ブレイクダンスの文化や表現、音楽について理解を深めた。また、生徒たちはチームに分かれ、直接プロダンサーから指導を受け、共にダンスバトルを体験した。

集団で「人に伝わる表現」を学ぼう

集団演技で「人に伝わる表現」を学ぶために、本校の運動会の集団演技種目である組ダンスを体験した。

プロダンサーによる組ダンスを鑑賞し、その表現が次年度の運動会につながることを目指し、直接プロダンサーから指導を受けた。第3学年は、来年度以降の後輩に向けて活用できるレクチャー動画を作成した。

※組ダンスとは、本校が組体操を現代的なリズムのダンスにアレンジしたもの。

体験①概要

体験②概要

体験③概要



【学校・教員】

- ・1回目の体験の前に「人に伝わる表現」について、保健体育のダンスや音楽の歌唱表現などの教科を横断して学ぶ機会を設けた。
- ・文化祭の学級ごとに行う合唱にも生かせるように、1回目の体験も文化祭の計画に盛り込んだ。



【生徒】

- ・事前に保健体育、ダンス、特別活動の中で、「人に伝わる表現」の価値やその難しさを学んだ。
- ・学校生活の中で「『人に伝わる表現』を行うことに前向きに取り組んでいるか」という問いに対し自己評価を行い、課題意識をもって体験活動に臨んだ。

アンケートでは、授業内や学校行事における表現活動において、「『人に伝わる表現』について前向きに取り組んでいますか」という設問に、肯定的な自己評価をする生徒の割合は体験前は75.5%であったのに対し、体験後は84%に増加した。文化祭では体験プログラムで学んだ影響が顕著にあらわれた。

文化祭にむけて、「人に届ける」ということをどれだけ意識するかを考えさせることができました。また聞き手の「拍手」が自分にも返ってくるという話は、文化祭前にもう一度話をしようと思いました。



ただ話したり、歌ったりするだけでは、自分の伝えたいことは相手に伝わらない。思いや気持ちをのせ、一生懸命届けようとする心が何よりも重要なのだということを知り、今後に生かしていきたいと考えた。

講演とライブ体験

シンガーソングライターによる講演とライブ体験により、言葉と歌で「人に伝わる表現」を学んだ。

講演では、「今があるという幸せ」「今日できることを一生懸命生きる」ことの大切さについて語られ、ライブでは、その大切な思いが詰まった歌を表現していただいた。



取組・実践

セッション(アーティストと一緒に合唱)

生徒たちは体験前に運動会の体験や文化祭の準備の中で、「『人に伝わる表現』を行うことに前向きに取り組むこと」に対し課題意識が高まっていた。

体験では、皆で声を合わせて一緒に歌うセッションで会場が一つになった。

「歌を楽しむこと」や、「自分を解放して表現すること」が、いかに人に伝わるか、感動を与えるか、ということを生徒が感じ、文化祭の合唱や今後の表現活動につながる体験となった。





【学校・教員】

- ・テーマとしてオリンピックを取り上げ、パリオリンピックで採用されたブレイクダンスをとおして、文化としてのスポーツの意義を事前に学ぶ機会を設けた。
- ・「身体表現で人に伝わる」表現をするためには、音楽もその要素の1つであるという視点をもてるように工夫した。



【生徒】

- ・ブレイクダンスとはどのようなものなのかパリオリンピックの競技映像で学んだ。特にパリオリンピックではダンスバトルという文化が競技化されていることや、音楽はブレイクダンスに欠かせない要素の1つであり、パフォーマンスに大きな影響が出ること事前に学習した。

普通の授業において、「主体的に学習に取り組んでいる」と答えた生徒の割合は51%、「他者と協働して表現することができている」と答えた生徒の割合は51%であった。一方で、体験活動において、「主体的に取り組むことができた」と答えた生徒の割合は60%、「他者と協働して表現することができた」と答えた生徒の割合は65%であり、体験活動の方が、主体的で協働的な学びへの自己評価が高かった。

体験活動以降は、普通の授業でも表現活動への積極性が向上した。

運動やダンスが得意な生徒や苦手な生徒どちらも自身にできる表現を考え、チームとして一つのダンスを作り上げており、個別最適な学びになっていたと感じました。参加した生徒の中には、ダンスの発表と聞いて身構えていたが参加してよかったという声もありました。



言葉だけでなく、動きでも気持ちを伝えることができるというのが大切だと思った。喋るのが得意じゃない私でも今回の活動で気持ちはちゃんと伝わるんだと思った。

ブレイクダンス鑑賞と音楽について

パリオリンピックの種目に採用されたブレイクダンスを体験した。

プロダンサーは、自身の演技を解説しながらパフォーマンスを披露した。迫力のある表現に、生徒から歓声が上がるとともに、身体全体を使って表現することを学んだ。

また、MPCプレイヤーがMPCについて解説し、生徒の声を使って即興でパフォーマンスしたことにより、表現をする際の音楽の重要性についても学んだ。

※MPC：主に音楽制作や編集に使われる装置やソフトウェア。



ブレイクダンスバトル体験

生徒を4チームに分け、プロダンサーと共にダンスバトルに挑戦した。プロダンサーには、バトル体験で踊る振付だけでなく、生徒の個性を生かした表現も即興で考えてもらった。

振付を終えた後、MPCプレイヤーの生演奏で、ダンスバトルを行った。

短時間の練習だったが、チームで合わせてダンスをしたりソロで踊ったりと様々な表現を見せていた。参観したチームが、拍手によるジャッジ体験をした。拍手の大きさと勝敗を競い合い、ダンスバトルの楽しさを味わった。

以上のことにより、身体表現で「人に伝わる表現」を学んだ。



体験 3回目

計画・準備・事前学習



【学校・教員】

- ・本校の運動会は、全校で演技する伝統種目「組ダンス」がある。この組ダンスは、学年ごとに踊る振付が決まっているため、来年度の運動会における各学年の役割を意識できる内容にした。
- ・「集団演技で人に伝わる表現」について学ぶ機会を設けた。



【生徒】

- ・今年度の運動会で行った組ダンスを映像とともに振り返った。
- ・来年度に向けて課題をもった。
- ・来年度の自分たちが行う振付を確認し、第3回目の体験への意欲を高めた。

事後振り返り

組ダンスを通じて集団演技で人に伝わる表現の楽しさを学んだ。集団演技が苦手な生徒からは「集団での表現は、個人でやるよりも表現の幅が圧倒的に増えるから、集団での楽しさや良さを知り、集団演技に前向きになれた。」という声が聞かれた。さらに、来年度の運動会に向けても前向きに取り組もうとする態度の醸成につながった。

成果

3回の体験活動に対して約95%の生徒が「主体的に参加することができるようになった」とアンケートに回答した。また、事後の振り返りから、表現することに対して約65%の生徒が「前向きに取り組もうとしている」ということが分かった。表現することに消極的な生徒も「一人では難しいが、集団であれば取り組みたい」と表現することへの意欲が見られるようになった。以上のことから、体験活動を通して、生徒が学校行事や授業に意欲的に参加にできるようになったとともに、体験活動で学んだ「人に伝わる・伝える」ことを意識した活動や言動が顕著に表れるようになった。



組ダンスの鑑賞

高いダンス技能や表現力を要するプロダンサーが行う「組ダンス」を鑑賞し、集団での表現を学んだ。本校生徒は組ダンスを運動会で経験しているが、自分たちの動きや表現との違いを感じるとともに、どのように身体を動かし、表現すればプロのようになるのかを学んだ。

プロの素晴らしいパフォーマンスに、生徒から自然と声を揃えてパフォーマンスを盛り上げるなど、生徒の鑑賞態度にも成長が見られた。



取組・実践

来年度の運動会に向けて

来年度の運動会に今回の表現活動がつながることを目指した。

第1・2学年は来年度担うことになっている振付パートを学年ごとに学び、さらに立ち位置や振付の工夫などの構成に関する指導も受けた。

第3学年は、これまでの経験や今回の体験で得た「表現」を使って、来年度以降後輩が、運動会の練習時に活用できるレクチャー動画の作成に取り組んだ。

